

令和5年度 学校評価報告書

小樽市立潮見台小学校  
校長 加藤 広子

1 本年度の重点目標

自分で考え、進んで行動する子どもの育成	(目指す姿) ① 気持ちのいいあいさつができる子 ② 学び方を身に付け、進んで学ぶ子 ③ 命を大切にできる子
---------------------	---

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	家庭学習に取り組む児童の割合を100%にする。	C	年度当初、家庭学習について改めて教職員の共通理解を図った。使い終わった家庭学習ノートを校長室前に展示し紹介する取り組みも行った。後期児童アンケート「家で(学年×10+10)分間以上学習している」の肯定的回答の割合は71%であった。	○
	特別支援教育の充実	学級経営交流を年3回以上行い、コーディネーターを中心に支援を要する児童へ組織的な支援を実施する。	A	学級経営交流を年3回行った。また、職員会議などの諸会議で必要に応じて児童実態交流を行い、コーディネーターを中心にして支援を要する児童への組織的な支援を行った。	◎
	国際理解教育の充実	「外国語活動及び外国語の学習が好き」と回答する児童の割合を90%以上にする。	C	専科指導(小中一貫・連携教育への支援)加配における中学校教員による専門的な指導や退職教員等外部人材の活用を行った。後期児童アンケート「外国語の学習は好きですか」の肯定的回答の割合は70%であった。	◎
	理数教育の充実	「理科の学習が好き」と回答する児童の割合を95%以上にする。	B	専科指導(理科)加配における専科教員による専門的な指導を行った。後期児童アンケート「理科の学習は好きですか」の肯定的回答の割合は83%であった。	◎
	情報教育の充実	4年生以上で情報モラル教室を実施する。	A	外部講師を招き4～6学年で情報モラル教室を行った。4・5学年は授業参観で行えたことにより、保護者向けの内容も取り入れ保護者への啓蒙を図った。	◎
	キャリア教育の充実	全ての学年で見学学習や外部講師による授業を実施する。	A	1学年は水族館、2学年は市立図書館や校区内の市場、3学年は警察署や消防署、4学年は校区内の歴史的建造物や小樽市廃棄物最終処分場などの見学を行った。5学年は宿泊研修での環境教育、6学年は租税教室を外部講師を招き行った。	◎
改善方策	多くの児童が家庭学習に取り組んでいたが、「家で(学年×10+10)分間以上学習している」という児童の割合は昨年度より減少(R4年度77%)した。家庭学習習慣の大切さについて児童や保護者へ働きかけ、定着や充実を図る。 後期児童アンケート「算数の学習は好きですか」の肯定的回答も79%と低い結果であった。国際理解教育・理数教育の充実に向けて、子どもたちが主体的に学び学力がしっかりと定着するような授業改善によりいっそう努める。				
学校関係者評価委員による意見	学力向上の取り組みについて、多くの保護者が肯定的にとらえている。学校の努力が認められ大変良いことだと思う。ただ、保護者アンケート「学校は、子どもたちの学力向上に取り組んでいますか」について、「そう思う」前期48%・後期40%から「だいたいそう思う」前期50%・後期59%と、1割近い人が評価を下げていることが少し気になるので、今後も学力向上のための取組をよりいっそう推進してほしい。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。	B	子どもたちの自己肯定感が高まるよう、さまざまな場面で子どもたちのよいところをほめ、認めてきた。後期児童アンケート「自分にはよいと思うところがあると思いますか」の肯定的回答の割合は79%であった。	◎
	ふるさと教育の充実	全ての学年で地域の素材や施設、人材を活用した授業を実施する。	A	1・2学年は地域探検、3学年は勝納川の生き物調べ、4学年は屋形船乗船や松前神楽の体験、校区内の歴史的建造物調べを行った。また、PTAと連携し全学年を対象に「潮音頭」振り付け練習会を行うとともに、「潮ねりこみ」に参加(児童・保護者・教職員計44名)した。	◎
	読書活動の推進	「読書が好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。	A	子どもたちが本に親しむ機会をもつよう、各学級で朝読書の時間を設けたり、児童会図書委員会が休み時間に読み聞かせを行ったりした。後期児童アンケート「本を読むことは好きですか」の肯定的回答の割合は78%であった。	◎
	体験活動の推進	全ての学年でボランティア活動などの体験活動、地域の素材を活用した自然体験活動を実施する。	A	PTAや町内会と連携し、全学年に呼びかけ「小中合同クリーン作戦」を行った。当日は131名の児童・保護者・地域住民・教職員が参加し、校区内の清掃活動を行った。	◎
	コミュニケーション能力の育成	「あいさつをしている」と回答する児童の割合を100%にする。	B	今年度の目指す子ども像の1つに「気持ちのいいあいさつができる子」があり、さまざまな教育活動を通してその具現化に向け取り組んだ。後期児童アンケート「自分から進んであいさつをしていますか」の肯定的回答の割合は96%であった。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	全ての学級でいじめの未然防止に向けた授業を行うとともに、いじめアンケートで「いじめはどんな理由があっても許されない」と回答する児童の割合を95%以上とする。	B	共感的な人間関係を大切にするなど、どの子も安全で安心な学校生活を過ごせる学校・学級づくりを行った。また「いじめは許されない」という指導も行った。10月に実施したいじめアンケートにおいて「いじめはどんな理由があっても許されない」の回答の割合は92%であった。	◎
改善方策	子どもたちの自己肯定感を高めるため、さまざまな場面で、目標をもたせ成就感や達成感を味わえるようにしたり、子どもたち同士がお互いのよさや頑張りを認め合う機会を設けたりする。 良好な人間関係を築くうえであいさつはとて大切である。また、相手の存在を尊重し心を開くことも考える。きちんと自分の気持ちを伝えられるよう、普段からしっかりと声を出してあいさつができる子どもたちを育成し、明るいあいさつが響く学校づくりを推進する。				
学校関係者評価委員による意見	児童アンケート「困ったことがあったら、学校に先生に相談していますか」において、否定的回答が20%ほどあるのが気になる。子どもとの信頼関係を、築き、気軽に相談できる雰囲気づくりによりいっそう努めてほしい。 地域と協力しての行事など、学校と地域がよりいっそう連携できたらよいと思う。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「体育の授業や外遊びが好き」と回答する児童の割合を95%以上にする。	B	子どもたちの体力・運動能力の向上を目指し体育の授業の導入時になわとびやサーキットトレーニングを取り入れるなど、体力向上改善プランに基づいた取り組みを行った。児童アンケート「体育の授業や外遊びなど、体を動かすことが好きですか」の肯定的割合の割合は91%であった。	◎
		食育の推進	全ての学級で栄養教諭との連携した取組(食育指導、給食指導)を実施する。	A	全学級で栄養教諭による職員の授業を行った。子どもたちは栄養や食生活についての正しい知識をもつことができた。	◎
		健康教育の充実	「早寝・早起きを心がけている」と回答する児童の割合を85%以上にする。	B	子どもたちに自己管理能力が身につくよう、長期休業中に生活リズムチェックシートを活用した。また、保護者にお便りや懇談会などを通して望ましい生活習慣の大切さの啓蒙を図った。後期児童アンケート「早寝・早起きをしていますか」の肯定的回答の割合は76%であった。	◎
改善方策		・運動することが楽しいと思える体育の授業づくりに努めたり、休み時間に外遊びを奨励し子どもたちが身体を動かす機会を増やしたりする。 ・後期児童アンケート「朝ごはんを食べて登校していますか」の肯定的回答の割合は94%であった。子どもたち自己管理能力が身につくよう、さまざまな機会を通して「食事」「運動」「睡眠」の大切さを伝える。また「スマホ利用時間」についての啓蒙も図る。				
学校関係者評価委員による意見		・目標に達していないところについて、教職員の努力が児童や家庭に伝わってほしい。 ・南小樽地区で外遊びなどの行事ができればよいと思う。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	「家庭学習への声かけ、見守りをしていいる」と回答する保護者の割合を90%以上にする。	B	お便りや懇談会など通して家庭学習の大切さを伝えるとともに協力を依頼した。多くの保護者が家庭学習の声かけや見守りをしていて、後期保護者アンケート「お子さんは、家で(学年×10+10)分間以上学習していますか」の肯定的回答の割合は61%であった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	「樽っ子サポート事業」を活用した放課後学習や長期休業中の学習会を実施し、1日の平均参加者を21人以上とする。	A	毎週月・火・水・金の放課後や長期休業中(夏・冬とも2日間ずつ)に学習会を行った。1日の参加者数の平均は、放課後学習会は25人ほど、長期休業中学習会は80人ほどであった。個に応じた指導により、子どもたちは意欲的に学習に取り組み、学習内容を身につけることができた。	◎
改善方策		・子どもたちが家庭学習の習慣を身につけるためには学校と家庭の連携・協力が不可欠であることを、保護者にお便りや懇談会などで周知する。学校においては、子どもたち一人一人の家庭学習の取り組みを点検し個に応じた働きかけを行ったり、取組例を紹介したりすることを継続する。家庭においては、開始時刻を決めるなどのルールづくりや学習に集中しやすい環境づくりを進めるよう働きかけていく。				
学校関係者評価委員による意見		・家庭での学習は気持ちが緩んでしまうので放課後の学習活動はともよい。もっと利用してほしいと思う。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中学校間で交流する機会を年3回以上持つ。	A	互いの授業を参観し合ったり(4回計画、うち1回は熱中症予防のため中止)、乗り入れ授業(体育スキー予定)を行ったりした。また、合同研修会(「教育課程」「学力・体力向上」「生徒指導」の3部会)で情報交流などを行った。	◎
		教育環境の整備・充実	ICTの効果的な活用に向け、全教職員による研修を年3回以上実施する。	A	校内研修を2回(①外部講師②研究担当が講師のミニ研修)行った。また、年2回の新しいかたちの学び推進教員の勤務日の際に、各担任は推進教員とTTで授業を行い、ICTを活用した授業のあり方について学んだ。	◎
		教職員の資質・能力の向上	校外の研修会(オンライン・オンデマンド含む)に全教職員が年2回以上参加する。	A	管理職からの働きかけや教職員一人一人が経験年数や校務分掌などを考慮しながら自主的に研修会に参加(年2回以上)し、自身の資質能力の向上に努めた。	◎
		学校運営の改善	全教職員の平均時間外在校等時間を25時間以下にする。	A	管理職からの働きかけや教職員一人一人の業務改善などにより、平均時間外在校等時間が昨年度より縮減(R4年度27.6時間→R5年度24.8時間)した。	◎
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全教室や非行防止教室を実施する。	A	登下校時や放課後に交通事故に遭わないよう日常的に指導を行った。4月には交通安全指導員による交通安全教室を1学年(歩行教室)と3学年(自転車教室)で行った。	◎
改善方策		・今年度は校区内の幼稚園や保育園との連携も行った。今後も「小1プロブレム」解消に向けて幼保小連携をいっそう推進する。 ・一人一台端末を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善のために、研修をよりいっそう推進する。				
学校関係者評価委員による意見		・学校の努力が実り目標に達していると思う。今後も更なる工夫した取り組みを期待する。 ・オンライン活用による教職員の研修ができるようになったことは時間の有効活用になりよいと思う。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市立図書館、総合博物館をそれぞれ1回以上活用する。	A	2学年の生活科で市立図書館を1回活用した。総合博物館は活用しなかったが、5学年の総合的な学習の時間に学芸員を講師とした出前授業を行った。		◎
改善方策		・市立図書館や総合博物館など、社会教育施設を積極的に活用する。				
学校関係者評価委員による意見		・社会教育施設の更なる活用を期待する。 ・地域の町内会館が活用されると良いと思う。また学校からも町内会館利用や町内会行事の案内があるとよいと思う				